

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 2009年9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	” 0175400407
法人名	社会福祉法人 遠軽町社会福祉協議会
事業所名	遠軽町社協 ぐるーぷほーむ春來
所在地	紋別郡遠軽町向遠軽263番地 (電 話)0158-49-3110

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成21年8月21日

【情報提供票より】(21年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 30 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 7 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	7.4

(2) 建物概要

建物構造	木造作り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000~60,000 円	その他の経費(月額)	12,000~18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 900円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	4 名	要介護4		0 名	
要介護5	3 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 85.6 歳	最低 73 歳		最高 97 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道厚生連遠軽厚生病院・アサヒ歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはのどかな田園風景の緑豊かな環境に立地し、民家を利用した同法人のデイサービスセンターとヘルパーステーションが隣接しています。職員はお互いの施設を行き来するなどし、連携をとり利用者と馴染みの関係を築いています。ホーム内は廊下等に一人になれるスペースを確保する等工夫が見られ、利用者に配慮した安心できる設計で、家庭的な雰囲気を醸し出しています。入浴は利用者と職員が一緒に入る支援がされ、利用者に安心感を与えるだけでなく、会話がその後のケアに繋がっています。又、夜勤の2名体制は利用者、職員の安心した人員配置になっています。理念に「このまま、そのまま、ありのまま」を掲げ、全職員が利用者のありのままを大切に「共に生活する、つながりを大切にする、幸せと思える暮らしができる」をケア理念とし、実現に向け日々取り組んでいます。地域においてホームが中心的な役割を担い、地域の拠点となるよう努力する姿が伺えます。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点、自己評価、介護計画に添った記録、重度化・終末期の指針の策定、災害時の避難訓練の実施、定期的に食事内容のアドバイスを受けるなどについては、ミーティングで話し合い改善に取り組んでいます。昨年11月より滞っていた運営推進会議を今年7月に開催し、今後は2ヶ月毎の開催の定例化を目指しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は評価の意義、目的について十分理解しています。自己評価は作成時間に配慮し、代表職員(5名)で作成し、ミーティング時に全職員の周知徹底を図っています。改善点については職員のケアの振り返りとなり、今後のサービスの質の向上に活かそうと努めています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は昨年11月から滞っていましたが、今年7月に利用者家族・地域の代表者・町介護保険課職員・地区民生委員・介護支援専門員等を構成メンバーとし開催され、議事録を作成しています。20年度事業報告・21年度事業計画(案)・消防法の改正・ホームの現状について報告し、意見交換を行い地域の情報を得る機会となっています。今後更に会議を活用していくかが課題となっています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>外部・内部の苦情窓口を入居時に家族に説明しています。職員は家族の来訪時に利用者の状況報告をし、コミュニケーションを図り、意見・要望等を聞くように努め、あつた時は会議で話し合い、情報を共有し日々のケアに反映しています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、行事(盆踊り等)には積極的に参加するとともに町内会のお手伝いをするなど、地域との連携を図っています。ホーム行事(流しそうめん、焼き肉等)の案内を地域の方達に手渡しすることで接点を持つ努力をしています。近隣住民は独居の高齢者が多く地域の方達と一緒に支えることを検討しています。ボランティア(紙芝居、器楽演奏等)の来訪や月1回のデイサービス利用者との交流は利用者の楽しみになっています。</p>

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の現在の状況を全て受け入れ、支えて行くという思いを込め、『このまま そのまま ありのまま』を事業所理念として掲げ、更に具体的にケア理念①共に生活する ②つながりを大切にする ③幸せと思える暮らしが出来る を職員全員で作成しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、常に理念を意識しながら日々のケアの中で理念に沿っているか確認しながら取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域行事(盆踊り等)に参加し又、地域住民を招いてのイベント(流しそうめん、焼肉)を開催して交流を図っています。開設して6年が経ち、地域のホームへの理解も深まり、清掃や災害時等の協力体制も築かれています。知的障害者の社会訓練の為に有償ボランティアの受け入れも行っています。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を十分に理解し、代表職員(5名)で作成した自己評価を全体ミーティング時に話し合い、全職員で共有し、自らの日々のケアを振り返りサービス向上に活かしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年11月以降滞っていましたが、本年7月に利用者家族、地域の代表者、行政職員、民生委員、地域包括職員等に声を掛け開催されています。事業報告、事業計画、消防法改正、ホームの現状報告等意見交換を行い、サービスに反映しています。	○	地域の中で利用者を支え、サービス向上に繋げて行くためにも定期的開催し、話し合われた内容は、メンバーのみならず利用者家族と共有し、更なるサービス向上に努めていく事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター、行政とは常時連絡を取り情報交換や相談に努めています。定期的開催の地域ケア会議、地域医療福祉連携会議等に参加し、情報の共有に努めサービスの質の向上に取り組んでいます。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時を大切な機会と捉え、利用者と共に状況の報告をしています。2ヵ月毎にホーム便り“はるきつうしん”を発行し、金銭報告書、担当者が書いた近々の状況報告の手紙と共に送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情窓口の説明をしています。管理者、職員は常日頃から家族とのコミュニケーションを図り、何でも言って貰える関係作りに努めています。意見、要望があった場合は職員間で話し合い日々のケアに反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職は少なく、担当制による顔馴染みの支援を提供しています。新規採用者には、試用期間を設け馴染みの関係作りに努め、利用者のダメージに配慮をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、研修会、勉強会の重要性を認識し、情報提供に努め、職員は研修会参加の機会を数多く持っています。所長が講師となり、新規採用者や若手職員の為の勉強会を毎月開催し、職員のスキルアップと、サービスの質の向上に繋げています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会網走ブロックに参加し交流や情報交換の機会を持っています。遠紋地区に於いて開催される勉強会にも参加し職員の交流に努めています。今年度中に、他グループホームと職員の交換実習を計画しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急時以外は時間をかけて見学や、宿泊する中で馴染みながらの利用開始となっています。母体の遠軽社協経営の小規模デイサービス利用者が入居するケースが多く、顔馴染みの関係構築がスムーズに行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営者、職員は、利用者と共に生活する事を大切に、利用者の生活暦や好みを尊重しながら、調理や、後片付け、買い物等共に行う中で、学び合い支え合う関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営者、職員は、利用者の思いに常に耳を傾け意向の把握に努めています。又、一緒に入浴し関係作りに努める事も意向の把握に役立っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3カ月に一度個別アセスメントを行い現状の把握に努め、計画作成担当者と担当スタッフが定期的にカンファレンスを行い、利用者、家族の意向を反映し、介護計画を作成しています。作成した介護計画は家族の来訪時に確認を得ますが家族が遠隔地の場合は、纏めて送付することもあります。	○	介護計画作成前に、利用者家族の意見、要望を確認し、作成した計画は、その都度家族の確認を得る事を期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月一度定期的に見直しを行っています。毎日の引き継ぎ記録確認や全体ミーティング時のプラン見直し等で状態に変化があった場合は、その都度、見直され、全体ミーティングで報告し周知されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じ、通院、買い物、理・美容等の支援を柔軟に行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行い、家族への報告もされています。月に一度の訪問診療や週に一度訪問看護師による健康管理が行われ連携を取りながら対応しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化・看取りの説明を行っており、指針も作成されています。必要になった時点でまたその都度家族と話し合いが持たれ、家族の希望に合わせた対応に取り組んでいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者、職員は利用者の尊厳に配慮した言葉掛けや接し方に留意し、プライバシーに関わるケアは、利用者の希望を尊重しています。個人記録の記入、保管に付いても個人情報保護の観点から配慮がされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望やペース、リズムを尊重した支援を心掛けています。隣接のデイサービスと合同でコーラスを楽しんだり、デイサービスを訪問する利用者もおり、思い思いに過ごしている様子が伺えます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員で構成される食事委員会が利用者の嗜好や季節感に配慮した献立を作成しています。利用者の力量に応じ調理や後片付けを職員と共に行っています。食事時には利用者の好みの音楽を流し楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や体調を考慮した支援を行っています。職員も一緒に入浴し、関係作りに努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとり一人の生活歴や力を考慮し、家事(食事の準備、後片付け、洗濯物たたみ等)を行い役割の支援に繋がっています。職員で構成される行事委員会がお花見や、日帰り旅行等様々な行事を計画し、利用者の楽しみとなっています。時には担当職員と外食を楽しむ事もあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、買い物や近所の酪農家に牛乳を頂きに職員と出かけています。散歩も日常的に行い、利用者の希望で、演芸会やコンサートに出かける事もあります。年に一度家族も一緒に温泉一泊旅行に出かけ楽しんでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、職員は鍵を掛けるケアの弊害を十分理解しており、防犯の為夜間の施錠以外は、鍵を掛けないケアを実践しています。一人で外出する利用者には見守りながら確認し、安全確保に努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員ミーティングに於いて避難経路、役割等を話し合い、確認し、年2回避難訓練及び消火訓練を消防署、地域住民の協力を得て実施しています。夜間を想定した訓練も実施しています。今後、近くの自衛隊にも協力を要請する予定があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立内容(バランス・カロリー)を栄養士に見てもらいバランスの良い食事を提供しています。ひとり一人の状況に合わせた食事の提供もされています。水分量は、800～1200ccを目安に支援していますが、記録は一部の利用者となっています。	○	高齢者の状況は変化しやすく、日頃からの記録が状況変化の発見にも繋がります。・食事量・水分量は全員の記録を期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく落ち着いた雰囲気のホテル内には一人になれる空間作りや5ヵ所あるトイレの向きや広さ、男性用小便器の設置や形の配慮、2ヵ所の浴室等利用者本位に考えられた工夫が随所に見られ、清潔感も保たれ居心地良く過ごせる様配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みの家具や、寝具が持ち込まれ、家族の写真等が飾られて、その人らしい個性を尊重した部屋作りとなっており、安心して居心地良く過ごせる様な工夫がされています。		